TAKE FREE

みなみあそくらしノート

熊本県南阿蘇村
移住のはなし

熊本県南阿蘇村 移住のはなし

みなみあそ
くらしノート

宝物を見つける暮らし

はじめに

美しい自然、人の温もり、打ち込める仕事…。
南阿蘇村での暮らしに見出すものは、
きっと人それぞれ。
幸せのカタチに、「正しい」答えはありません。
だから、南阿蘇で暮らす人たちの「生きた」情報に
ふれることこそ、移住の第一歩。
少しずつ地域に関わりながら、
あなたにとっての「宝物」を見つけてください。
その宝物をお互いに大切にし合えたなら、
こんなに素敵なことはありません。

南阿蘇村 DATA

面積	137.3 ㎢
人口	約 1 万人
産業	農業、観光など

人と自然が共存する、みんなのふるさと南阿蘇村

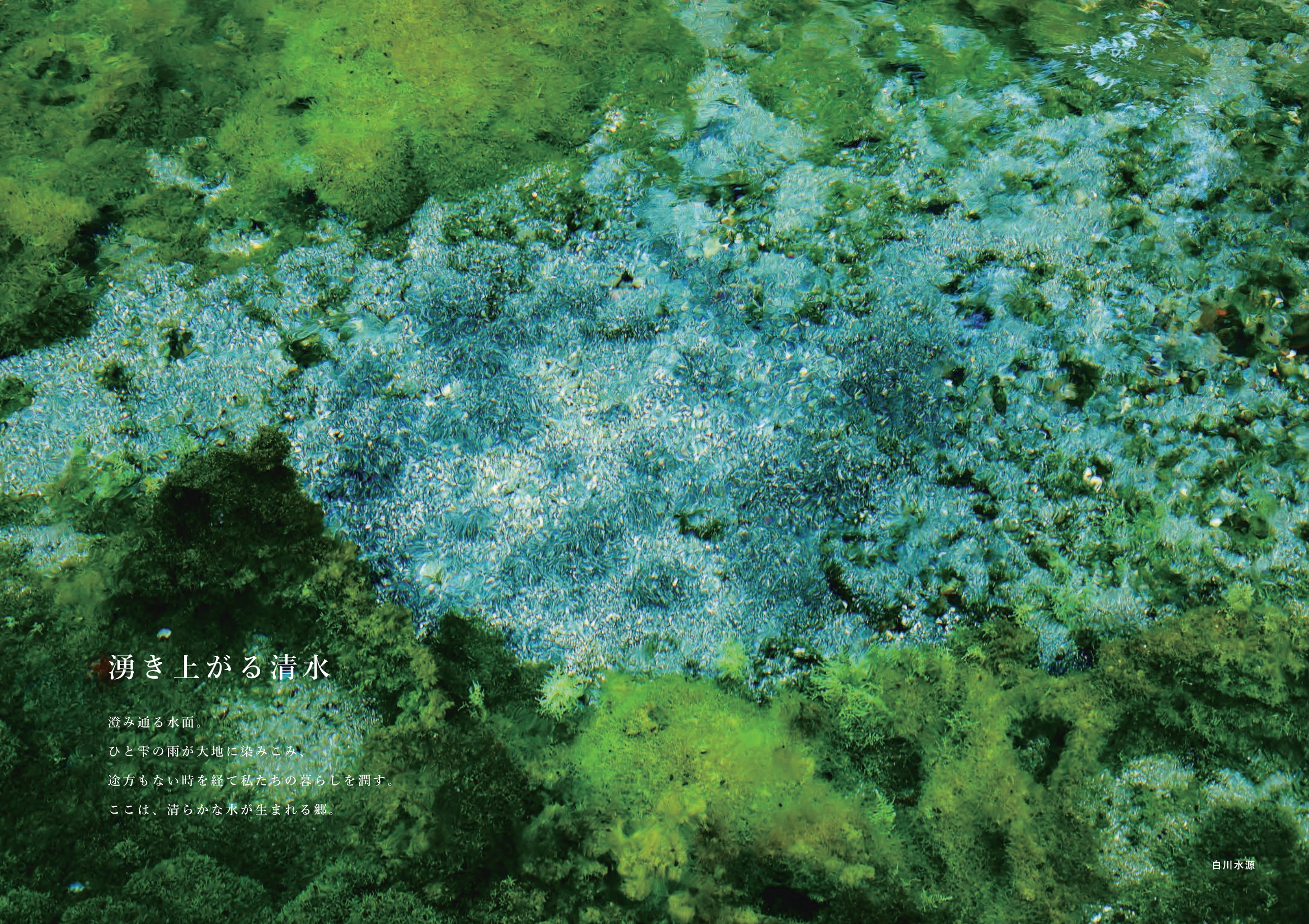
阿蘇郡の6町村（南小国町、小国町、産山村、
高森町、西原村、南阿蘇村）に1市（阿蘇市）を加え、
阿蘇郡市とよびます。南阿蘇村は、阿蘇郡市の南部、
阿蘇五岳と外輪山に囲まれた南郷谷に位置しています。
3村が合併し、2005年に発足しました。
清らかな水と、農業を軸に形成された美しい里山風景、
おいしい食と人の温もりが魅力。
田舎ゆえの不便さもありますが、住人の協同によって
心豊かな暮らしを送っています。

CONTENTS

P04 はじめに
P06 南阿蘇の風景
P14 南阿蘇村 行政区MAP
P16 地域の成り立ち 火山と水と草原のはなし
P18 移住の基本！ 地域ルール
P21 column みなみあそ暮らしコラム1
P22 澄み、住む。地域に伝わる祭り
P26 ミアミアソな日々
P28 column みなみあそ暮らしコラム2
P29 南阿蘇 村人図鑑
01 髙木政夫さん（中松三区）
02 坂井章加さん（第一駐在区）
03 吉永千尋さん（第七駐在区）
04 野口輝也さん、増田一期さん（沢津野区）
05 佐藤美奈さん（黒川区）
06 赤星信比古さん（第三駐在区）
P44 教えて！ みんなのお気に入り
P46 熊本地震震災ミュージアムKIOKUで辿る あの日の記憶
P48 知ってほしい ごみのはなし
P50 Village information
P54 スポーツを楽しむ
P56 交通アクセス
P57 ローカル情報はココでチェック！

千年かけて紡がれる風景

阿蘇五岳の通称で
親しまれる、
杵島岳（きじま）、烏帽子（えぼし）岳、
中岳、高岳、根子（ねこ）岳。
人と自然の稀有な
営みを象徴する。



湧き上がる清水

澄み通る水面。
ひと雫の雨が大地に染みこみ、
途方もない時を経て私たちの暮らしを潤す。
ここは、清らかな水が生まれる郷。

白川水源

生きる歓びを、分かち合う

作り手の真摯な
願いを受けて育まれるのは、
命のエネルギー
たっぷりの農畜産物。

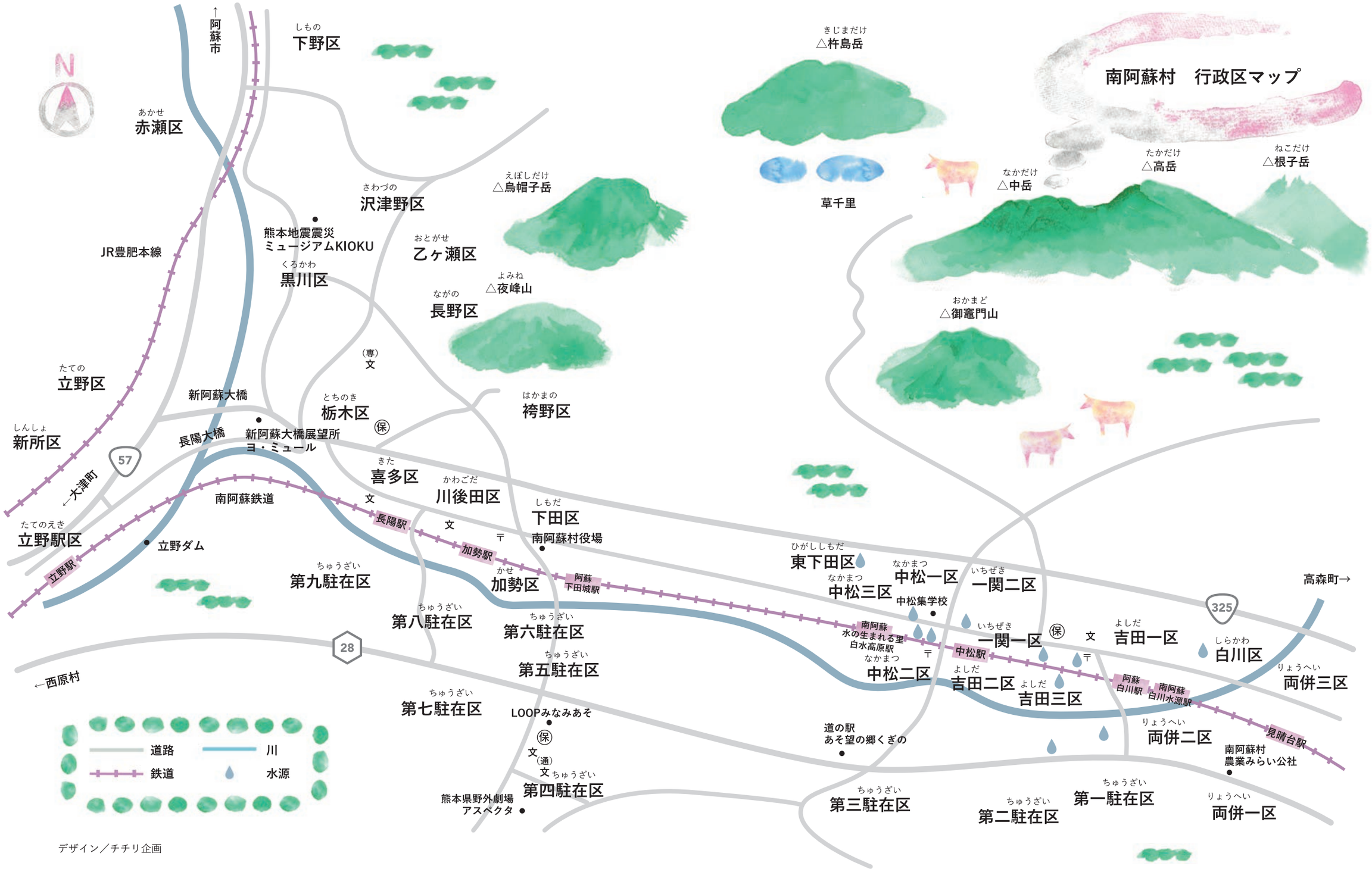
池の窪牧野

神代への誘いは、暮らしのすぐ傍らに

感謝を込めた一礼。
魂に響く太鼓のリズム。空気を震わす鈴の音。
空に吸い込まれる、子どもたちの笑い声。

久木野宮神社

南阿蘇村　行政区マップ

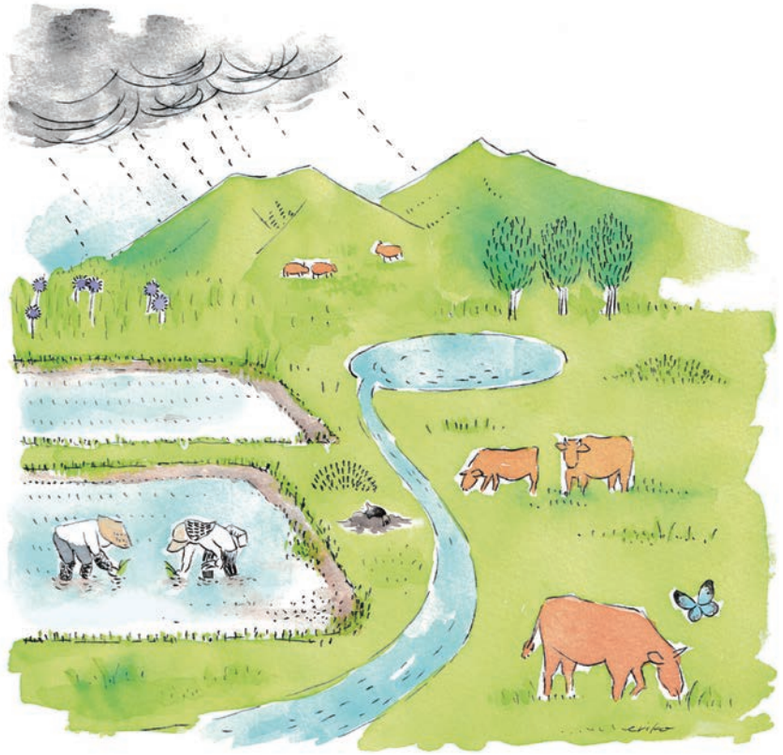


デザイン／チチリ企画

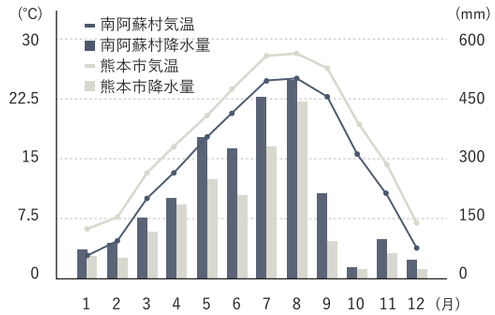
地域の
成り立ち

火山と水と草原のはなし

阿蘇の成り立ち
およそ27万年前から繰り返された噴火によって形成された、直径約20キロにもおよぶ巨大カルデラ。南阿蘇村はその内部に位置している。つまり、カルデラのなかに住んでいるということだ。



イラスト／チチリ企画



平均気温と降水量

（気象庁2021年～2023年）

年間を通して、熊本市内より冷涼な気候。一方、日本有数の多雨地帯でもある。草原や水田がその受け皿となり、豊かな地下水を育み、人や多くのいきものに恩恵をもたらしてくれる。

カルデラのなかに築く暮らし

もくもくと煙を吐く山、こんこんと湧き出でる水、太陽の光の下で農作業に勤しむ人々。南阿蘇村といえば、多くの人が、おおらかで美しい農村風景を思い浮かべるだろう。この村には〝暮らし〟という言葉がよく似合う。自然の恵みへ感謝しながら協同のなかで築き上げられてきた、歴史や文化が息づいているのだ。

雄大な自然への畏怖の念がそうさせるのだろうか、地域内には数々の神話がいまなお語り継がれる。最も知られているのは、「開拓神」とも称される健磐龍命（たけいわたつのみこと）の蹴破り伝説だ。外輪山を蹴破ってカルデラ湖の水を抜き、以来田畑が作られるようになったというもの。「立野（たての）」「数鹿流（すがる）」などの地名も、この神話に由来するという説がある。

草原と水と人の素敵な関係

新緑に萌える山々の景色に格別な思いを寄せる人も多い。遥か昔から続く人間と自然との関わりのなかで育まれてきた景色。象徴的なのが、春に行われる「野焼き」だ。真っ赤に燃え上がった後の黒々とした山肌には、荒々しい雰囲気が漂う。それから約1ヵ月、芽吹きの季節には表情が一変。軟らかく新しい草は放牧牛のえさとなり、いきものたちの優しいゆりかごとなる。

草原は、雨水をたっぷりと蓄える。雨量が多い割に災害が少なく、真夏でも水不足に困らないのは、草原が水がめのように水量を調整してくれるから。阿蘇から熊本地域の地下水層に流入する水量は、全体の約4割にものぼると試算され、熊本市を含む100万人の暮らしの要となっている。

野焼き

植物のスムーズな世代交代を促進する目的で実施。自然と人との関わりの歴史を象徴する。人手不足等により野焼きがままならない地域が増え、草原の藪化による環境変化、貯水機能の減退が危ぶまれている。

火山

噴火によって形成された、阿蘇のダイナミックな地形。軽登山道が整備され、気軽に散策できる。阿蘇五岳のひとつ、中岳は現在も噴煙を上げ続けており、活動が活発な時期には地元の言葉で「よな」とよばれる火山灰が降ることがある。

草原

千年前は馬、数百年前から牛の放牧が始まったとされる。草原とあか牛の組み合わせは阿蘇らしい景色のひとつ。野草たい肥を農業に活用した農畜産業が営まれる。「草原」「あか牛」「おいしい農畜産物」のブランドイメージの一翼を担う。

湧水

村内には11ヵ所もの水源が点在。自分の「イチオシの水源」について語る村民もいるほど、暮らしと結びつきが深い。日本名水百選に選ばれた水源もある。すべての水源を巡って、飲み比べてみるのも楽しそうだ。

火山や草原に関することを学べる施設
［ 阿蘇火山博物館 ］http://www.asomuse.jp
［ 阿蘇草原保全活動センター ］http://aso-sougencenter.jp

野焼き支援団体
［ 阿蘇グリーンストック ］ http://www.asogreenstock.com

阿蘇・草原のいきもの

一帯をピンクに染め上げるサクラソウや、るり色の羽に散らばる斑紋が美しいオオルリシジミなど、草原には希少ないきものが数多く生息する。

サクラソウ

オオルリシジミ

移住の基本！

地域ルール

観光と暮らしでは、異なる目線が必要。
「地域を担う一員になる」という意識を養おう。

旧白水村、旧久木野村、旧長陽村が合併して2005年に誕生した南阿蘇村。住人の自治精神のもとに区役などが実施され、地域独特の神事や祭り、風習が数多く残る。

それらは、37の行政区（さらに細かい隣保班（りんぽはん））ごとにとり行われる。たとえるなら「37の独立した企業」が、それぞれに運営されているようなイメージだろうか。移住前後に、自分の暮らす行政区がどんな性格なのかをしっかり知っておくことが必要だ。

そんなときに頼りになるのが、地域や行政との橋渡し役を担う区長の皆さん。区費関係やゴミの出し方、行事や消防団への参加方法、あるいは参加できないときの対応について直接尋ねてみよう。先輩移住者の話を聞きに行くのもいいだろう。

地域の人たちが大切にしてきた風習や文化に触れ、少しずつ関わりながら、お互いを知っていこう。時間がかかることもあるけれど、焦らず一歩ずつ。

近年新しく作られた分譲地は、行政区とは別に管理組合を設けている場合があるので確認を。

01 【 地区・行政区 】

- **白水地区：12行政区** ／ 白川水源をはじめ、湧水地が豊富。
- **久木野地区：9行政区** ／ 阿蘇五岳を望むことができる。
- **長陽地区：16 行政区** ／「阿蘇の玄関口」たる新阿蘇大橋を有する。

南阿蘇村には旧村単位で白水・久木野・長陽の3地区がある。さらに37行政区に細分化され（P14）、水利権や入会権、組合、地域活動に関する細かいルールが設けられる。行政区に加入することで、地域活動へ参加する流れ。

行政区加入は強制ではない。未加入の場合は行政からの配布物が届かない、ゴミステーションが使えないということもあるので注意が必要。加入するしないに関わらず、事前に区長に確認しておこう。

地域の情報は
こちらから
チェック！

02 【 区費（公民館費）】

ゴミステーションの管理、神社や公民館の維持、行事運営など、行政区の運営費用として世帯ごとに徴収されるお金。税金ではない。行政区ごとに金額が異なり、変動することもある。行事ごとに都度集金するという地域もある。区費のほかに、社協費、消防費などがある。
行政区に加入しない場合でも、ゴミステーション管理費や消防費は納めているケースがあるので、区長に確認を。

区費：行政区の行事運営、集会所の管理などに充てられる。

社協費：社会福祉活動に充てられる。

消防費：災害対策や消防団の活動に充てられる。

神社

公民館

03 【 区長 】

地域と行政との橋渡し役として、37行政区に各1名据えられる（任期あり）。行政資料の配布、地域行事のとりまとめなど、役割は多岐にわたる。地域のことをいろいろ教えてもらおう。区長のほか、公民館長（久木野地区）、会計、隣保班長などの役員がいる。

04 【 小部落・隣保班 】

行政区のさらに小さい単位、隣近所のつながり。葬儀手伝いや清掃当番などは、この単位で実施される。まずは行政区に加入して隣近所との交流を深め、希望すれば隣保班に加わるという流れがスムーズ。

05 【 区役 】

道路・水路清掃、美化作業などの、行政区全体に関わる仕事のこと。各戸から人を出して作業に当たる。参加できない場合、協力金の支払いが発生することがある。

06 【 行事・祭事 】

継承される神楽舞や美しい装飾の神輿など、その地域特有の文化が垣間見える。神事や祭りなどは地域の人と交流を深めるチャンス。古くからの行事は元々の住人だけで続けている場合もあり、初めは参加しにくいと感じるかも。どんどやなどの気軽なイベントの準備から加わってみよう。

どんどや

夏祭り

10 【 消防団 】

消火活動や避難誘導などを行う、住人の生命と財産を守る組織。「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神のもと、地域住民が団員となって活動している。消防団に所属したことで、地域に早く馴染めたという移住者の声も。

07 【 葬儀手伝い 】

葬儀場で行うことが多くなったが、亡くなった方の自宅で葬儀を行う場合もある。受付や食事の用意などを手伝う。

08 【 生活排水 】

村内一部（白川区、両併三区）を除き、下水設備はない。代わりに浄化槽（P21）を設置し、汚水を処理して排水している。排水先については、村への申請が必要。区長や管理者の承認が必要な場合もある。新築の場合はとくに要注意。

09 【 給水 】

村内の給水は村営水道が主。一部、地域の組合が管理している場合があり、組合加入金の支払いが必要になる。

COLUMN

みなみあそ暮らしコラム

イラスト／SAKIE

季節感

・冬は寒い

「九州だから暖かい」と思われがちですが、南阿蘇村の冬はかなり寒い。マイナス10度ほどまで冷え込む日もあり、水道管が凍結することもあります。昔ながらの家屋や夏場の別荘利用を前提に建てられた家に住む場合はとくに注意を。

※熊本弁で、水道管が凍結して割れること。

仕事環境

・就職

村内だけで考えると、かなり限られるのが実情です。村から通える近隣市町村にまで範囲を広げて検討するのが吉。ハローワークなどで情報収集を。

・インターネット

村内全域に光回線を整備。在宅勤務やテレワークをしている人もいます。
※個々の住宅や地域の状況により、即時利用できない場合があります。

・アルバイト

農繁期には農家バイトの募集があちこちであります。

交通事情

・公共交通機関

バス、鉄道、乗合タクシーがあります。
※詳細は産業観光課までお問い合わせください。

・自家用車

生活するうえで、自家用車はほぼ必須。道幅が急に狭くなったり、歩道のない道があったり、電動カートが走っていたりするので、くれぐれも安全運転第一で。冬は路面が凍結することがあります。

排水事情

・浄化槽とは？

白川区、両併三区を除き、村内に下水道はありません。その代わり、新築時の浄化槽設置が義務付けられています。浄化槽は、微生物の働きなどを利用して汚水を浄化し、放流するための設備。放流先が集落内の水路などの場合、使用には水路管理者の許可が必要です。家を建てる前に確認を。

いつもの暮らしのそこかしこに、
垣間見えるのは神様への感謝の心。
大切につながれる祭りは、
地域の魅力のひとつだ。

澄み、住む。地域に伝わる祭り

南阿蘇村の各集落には、季節ごとの神事や祭り、伝統行事が伝えられている。その多くが農業にまつわるもの。開拓の神である健磐龍命（たけいわたつのみこと）、水を司る豊玉姫命（とよたまひめのみこと）など、農に縁を持つ神々が祭神として名を連ねることからも、農業を中心として地域コミュニティが築かれてきたことが伺える。

祭りというと屋台が立ち並ぶ様をイメージしがちだが、村では神様へ捧げるものという本来の意味合いが濃い。神輿（みこし）を出したり宮相撲（みやずもう）を行ったりと、地域ごとさまざまな特色が現れるので、各集落の祭りを覗いてみるのも面白いだろう。

「住む」という言葉は、心が「澄む」状態に通じるという。長い歴史のなかで育まれた清らかな自然の恵みを享受する暮らしのそこかしこに、人々は神々の存在を見出し、澄んだ心で折々に祈りを捧げたのかもしれない。心晴れやかに、感謝の心を忘れず、「澄む」。日々の暮らしの根っこに、いつも据えておきたい気持ちだ。

神事の様子。コロナ禍にあっても、「これだけは」という地域の人たちの思いで続けられていた。

1月 どんどや

別名、左義長（さぎっちょ）。古くなった正月飾りやお守りを、感謝の気持ちを込めてお焚き上げし、1年の無病息災を祈る。竹で組み上げる櫓の準備はひと苦労だが、かっぽ酒やふるまい料理を楽しみに、地域全体が盛り上がる。

1月 もぐらうち

家内安全や五穀豊穣を祈念するもの。藁（わら）を巻いた竹竿を持った子どもたちが、周辺の家々をまわって庭や畑の地面を叩く。もともとは、田畑を荒らすモグラを退治する動作が伝統行事に転じたとされる。

秋 宮相撲

秋祭りのころに行われることが多い。神事である相撲を通して豊作を祈念し、豊穣への感謝を捧げる。少子化で縮小傾向にあるものの、「子どもたちが楽しみにしているから」と続けている集落も多い。

7〜8月 夏祭り　9〜10月 秋祭り

厄除けの獅子舞や、農作物の生長を神様に見ていただく神輿行列、神楽舞などを行う。平日に行われることも多く、大々的に周知されることは少ないので、開催日などは近所の人に聞いてみよう。

秋 しめ縄づくり

刈り取った後の稲わらを使ってしめ縄を作り、集落のお宮に奉納する。藁を綯（な）う、という手仕事を生業とする人はほとんどいなくなってしまったけれど、次代に残したい生活の技のひとつだ。集落によっては夏に行う。

中秋 お月見どろぼう

中秋の名月のお供え物を、「月の使者」である子どもがこっそり盗みにくる。さながら、和風ハロウィン。現代では、「お月見泥棒です!」と訪ねてくる子どもたちに、お菓子をあげる形になった。

祇園の岩戸神楽

地域に伝わる祭り

神楽

数百年の歴史を持つ
２つの神楽。
県や国の無形文化財に
指定されており、
それぞれに異なる
趣向を楽しめる。

長野岩戸神楽

暮らしの傍ら、神々とつながるひと時

笛の音が響く。身体の奥底、魂に直に触れられるような、不思議な感覚が満ちていく。翻る五色の布。重力など感じていないかのような、舞手の足運び。ひらりひらり、くるりくるり。次第に幽玄な気配を帯びるお宮の周囲には、地域の人たちのくつろぐ姿があった。

祇園の岩戸神楽は、一関一区の八坂神社（祇園社）をはじめ、所縁のある宮で舞われる神楽。本来は全三十三座あるというが、現在にまで伝わっているのは十三座のみだ。さらに第二次世界大戦の折に継承が途切れかけたものを、地域の若者たちが１９７４年に復活させている。「太鼓のリズムを聞けば身体が自然と動くって、当時教えてくれた先輩が言っていました」とは、元舞い手のひとりの言だ。

文化や伝統は、長い時間のなかで姿形を変えていく。携わる人が変われば、舞いも変わるもの。少し寂しくも思うけれど、それもまた自然なこと。ただそこには、「この神楽をつなぎたい」と変わらぬ心を寄せる人たちの存在がある。

右ページ写真上／夏の神楽は、本殿、御旅所（おたびしょ）、本殿の3部構成。写真は御旅所での舞い。　1 田畑を神様に見てもらいながら、2基の神輿を御旅所へ運ぶ。　2・3 秋の神楽では、さまざまな神が登場する。

祇園の岩戸神楽の奉納（八坂神社）
夏 7月15日　秋 10月14日

神々と人が織りなす、絢爛たる物語

すべてを舞うには三日三晩かかるという長野岩戸神楽。「地域の誇りです」と、現役の舞い手たちの言葉は力強い。長野地区では、若者の多くが、自然な流れで神楽を習う。小学生のころから携わっているという人も少なくない。保存会メンバーには、この道50年という人も。

始まりは、空気をさっと清め祓うような篠笛の音色から。ドン、と肚に響く太鼓が加わり、舞い手の所作が美しく揃う。舞手と観客が、神話の世界に溶けていくような一体感こそ、長野岩戸神楽の神髄。飛んだり跳ねたり、見上げるほどに高い竹に命綱なしで登ったり。かと思えば、静謐な雰囲気を漂わせて。動と静の切り替えが絶妙だ。

天照大神や素戔嗚尊など、日本神話で馴染み深い神々が登場し、ときに観客と交わりながら物語が展開されていく。場面に応じて変わる煌びやかな衣装や採り物（手に持つ道具）にも目を奪われる。日の沈むころに始まった神楽。座が進むごと、神楽殿は次第に観客で埋め尽くされていった。

右ページ写真下／第十六座、八雲拂（やぐもばらい）。有名なヤマタノオロチ退治の場面。　1 第六座、武者。武者の神々が弓を手に、荒れ狂う神を鎮める。　2 第三十一座、貴見城（きけんじょう）。猿田彦命（さるたひこのみこと）が、神々を道案内。

長野岩戸神楽の奉納（神楽の里公園）
夏 5月中旬　秋 10月下旬

ミナミアソな日々

移住3日目

今では牛の鳴き声はすっかり日常です。

南阿蘇の天候

自然とは美しく厳しいもの。。。

→関西の北部出身。

チチリ企画・エリコ　関西から移住して早10年。子育てに追われながらデザイン業などで活動中。

子育て環境

子育て、まずは周りとつながりましょう！

南阿蘇の風景

南阿蘇の物を食べることは、南阿蘇の農業を支えることにつながります。

MINAMIASO VILLAGERS

南阿蘇 村人図鑑

雨の日も晴れの日も、楽しいときもそうでないときも。
ここには、愛おしい日々の暮らしがある。
村人たちの、南阿蘇村暮らしをちょっと拝見。

01
髙木政夫さん
［ 中松三区 ］

02
坂井章加さん
［ 第一駐在区 ］

03
吉永千尋さん
［ 第七駐在区 ］

04
野口輝也さん
増田一期さん
［ 沢津野区 ］

05
佐藤美奈さん
［ 黒川区 ］

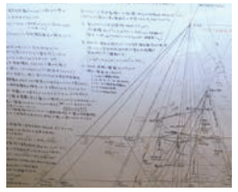
06
赤星信比古さん
［ 第三駐在区 ］

COLUMN

阿蘇の古社群配置の謎とロマン

神話と縁の深い阿蘇地域には、遥か昔から人々の信仰を集めてきた社が数多く存在する。最も知られているのは、火の国（熊本）の天津神（※）を祭る阿蘇神社（阿蘇市）だろう。その対となるのが、国津神（※）を祭る八坂神社（創建時の名称は北山神社。南阿蘇村）。歴史深いこれらの社群と阿蘇五岳とが、数学的に計算され尽くしたピラミッド状の配置にあるということを長年にわたる独自の研究によって示したのが、八坂神社の神主、田尻盛永さんだ。

途方もない年月を越えて脈々と受け継がれてきた、天と地、火と水、神と人が織りなす調和の世界。田尻さんが語る物語の壮大さに思わず引き込まれ、圧倒される。



上・右下／紀元470年頃に創建されたと伝わる、八坂神社。
左下／田尻さんが手描きした古社群配置図には、計算式がびっしり。
※天津神とは天（高天原）の神の総称。国津神とはもともとその地を守護していた神の総称。

優しき先人の道しるべ

ある日散歩をしていたら見つけた、「甲斐有雄の道しるべ」。気になって調べてみると、あっちにもこっちにも道しるべが！とある場所のひと抱えはありそうな岩にうっすらと刻まれた文字は、「右 阿○さん 左 くまもと」。100年以上も前、旅人が道に迷わないようにと、石工の甲斐有雄さんが私財を投じて造ったものらしい。

石垣がつくる文化的景観

先人たちの工夫が窺える美しい石垣。九州大学の研究によれば、村内に5千箇所以上が確認される。集落の形成が始まったころから、平地を造成するために築かれたと考えられている。積み方には強度を保つための工夫がほどこされ、熊本地震でも崩れなかったほど。集落ごとに採石場所や石の種類が異なり、それぞれの表情も趣き深い。

九州大学景観研究室 https://kyudai-keikan.net

村の魅力は心和む自然と人のあったかさ

Profile 01 ［中松三区］

髙木政夫さん

トマト栽培とあか牛の繁殖を手がける農家。「移住してきた人は、どんどん行事に加わってみて」。お互いを尊重し合う関係性が、いいコミュニケーションのポイント、と話してくれた。

塩井社水源の傍らにある、政夫さんのいつもの暮らし

村内に水源は数あれど、個人的なお気に入りはと聞かれれば「塩井社水源」と答える。南側の駐車場に車を停めた瞬間、目の前に広がる雄々しい外輪山。そのふもとに広がる人々の営みの景色。タイミングが合えば、南阿蘇鉄道を走るトロッコ列車の姿を見られることも。ひとしきり景色を堪能してから、水路に沿って水源に向かう道もいい。透き通った水に揺湯（たゆた）う緑の水草がなんとも気持ちよさそうだし、夏は子どもが遊んでいたりもする。ときどき、「モ〜」と牛の声が聞こえてきて、それがまたのどか。木漏れ日に青くきらめく水源の傍らに佇む社に参って、ちょっとひと休み。これだけで癒やされる。

そんな暮らしを、「いつもの、自然なことたいね」と穏やかな眼差しで話すのは、髙木政夫さん。トマト栽培とあか牛の繁殖を中心に生計を立てている。あの牛の声、なんと政夫さんちの牛が鳴いていたのだった。「ず〜っとここにおるけん、この風景はあたりまえ。反対の、久木野側からは阿蘇五岳の草原が見えるから、うらやましかったりもするとよ（笑）」。なるほど、そういうものかもしれない。

跡取りとして、ごく自然に農家になった政夫さん。もともとは米農家だったが、政夫さんが後を継いだ50年近く前、村では施設園芸（ハウス等での栽培）が広まりだしていて、政夫さんもまずはメロン栽培、その後トマト栽培へと転換したそうだ。

政夫さんの話を聞けば、トマトも牛も、成長過程にどう寄り添うかが大切なのだということがよくわかる。トマトであれば、水や肥料を与えるタイミング、的確な手入れ。牛であれば、母牛を草原で放牧させることで新鮮な青草を食べさせ、適度に運動させること。「牛は臆病だから怖がらせたらいかん」。愛情を込めて接すれば、牛も懐いてくれる。消費者と直接やり取りする機会はほぼないけれど、「自分の作ったものを食べてもらえるのは、そりゃ〜うれしい」と、顔をくしゃり。

とはいえ、政夫さんの農家としての規模感は小さめだろう。トマト栽培と牛の世話、ひとりで作業できるバランスを模索した結果、現在のスタイルに落ち着いたという。「規模を拡大して頑張っている人もいる。でもね、自分はもうこの年齢だけん、やれ

上／塩井社水源南側の駐車場から望む外輪山。この景色に惹かれて移住した人もいる。　下／塩井社水源の横にある塩井神社。祭神は水を司る女神。

政夫さんの自宅から車で10分ほど登った夜峰山（よみねやま）にある池の窪牧野（いけのくぼぼくや）で、あか牛を放牧している。牛の腹に書かれた文字は、政夫さんの「マ」。
※一般の立ち入りはできませんが、展望所から放牧風景を見ることができます（4月中旬〜12月中旬）。

1　自宅敷地内の牛小屋で生まれた子牛。「甘えて頭をこすりつけてくるから、可愛い」と政夫さん。8〜10ヵ月齢まで育て、子牛市場に出荷する。 2・3　政夫さんのトマトの出荷はお盆明けから秋にかけてと、通常よりやや遅め。「地域によって土壌が違うし、作り方が違う。味も違って面白い」。

るぶんだけでよか。地域の仕事もいろいろあるけんね」。地域の仕事とは、区役や行事のこと。政夫さんは塩井神社の宮総代（氏子の代表）でもあり、行事となればあれこれと差配する立場。人が一生のうちに担う役割は年齢や環境によって変わるもので、政夫さんはいま、「地域」に重点を置く段階にいるということだろう。

これがないと味けない。よど相撲がつないでくれる、地域の和

2023年10月20日夜。塩井神社の境内で、コロナ禍を経て4年ぶりのよど相撲（宮相撲）が開催された。提灯（ちょうちん）に照らされた立派な土俵は四方に竹が立てられ、しめ縄が飾られている。すべて、政夫さん筆頭に地域の人たちが拵（こしら）えたものだ。近隣の家族などがめいめいに集まって、次第ににぎやかさを増していく境内。そこへ、軍配を手にした行司役の政夫さんの口上が響く。「東西東西（とざいとーざい）〜！」さぁ、いよいよ勝負の始まりだ。

3〜4歳のちびっこが紅白のまわしをつけて行う奉納花相撲に始まり、小学生、中学生、高校生や帰省中の大学生、最後は大人。軍配が上がるたびに拍手喝采。「ヨッ、名行司！」と観客から声がかかる場面もあった。10月の夜ともなれば冷え込みが厳しいが、そんなもの吹き飛ばしてしまうほどの熱気。

夜9時過ぎまで盛り上がった、よど相撲。
「昔は、若者が隣の集落の宮相撲に勝負しに行ったりもしよった」らしい。
さながら道場破りだ。

ちなみに燃え盛る焚火には、かっぽ酒（青竹の筒に酒を入れて燗をつけたもの）が準備万端だ。

この光景が戻る日を、政夫さんはずっと心待ちにしていた。「ここの大人はみんな、小さいころに相撲を取った思い出がある。村を離れても、よど相撲に合わせて帰省する人もおる。そうやって、ここでつながってきたものがあるけん、絶やしたくなかとよ」。つながってきたもの。たとえばそれは、地域を思う心や、住人どうしの〝和〟なのだろう。

よど相撲は、この地に住むものどうしが肩を並べて語らう場でもある。日々暮らしていれば、毎日誰とでも仲良く、とはなかなかいかないものだ。けれど、政夫さんは言う。「自分の気持ちばっかりでモノを言わんこと。お互い様ってね。思いやりたい」。そんなふうに、あたたかい気持ちに立ち返らせてくれるのが、このよど相撲なのだと、人々の穏やかな顔を見ながら思った。

上／闇夜に灯る提灯が雰囲気を盛り上げる。下／最後は消防団青年部による相撲。決着前に行司が止め、「来年へ持ち越し！」とする。来年、また相撲をしようという約束のようなもの。

右上・左上／ゆったりとくつろげる、宿の1階。さりげなく活けられた季節の花に和む。カフェ兼イベントスペースとしても活用。
下／発酵食品を取り入れた、章加さんのとっておきランチ。提供日はSNSでチェック。
左／地域の風土に触れてもらおうと企画した、初夏の梅仕事イベントの様子。地域おこし協力隊主催で、章加さんは講師役を担った。

あなたの"大事なもの"思い出してほしいな

Profile 02 ［第一駐在区］

坂井章加（ふみか）さん

2015年、奈良県から家族（夫と息子2人）で移住。熊本地震を経験したことで、「幸せな暮らしは地域があってこそ、と気づけた」と話す。宿「青い空と白い龍」を拠点に、魅力的なコミュニティの輪を築いている。Instagram：@ fumick.kitchen

南阿蘇村に移住して初めてできた友だちが、坂井章加さんだった。いつもニコニコ、やわらかな佇まい。けれどその内側にはしなやかな芯があって、ハッとするような凛々（りり）しさを垣間（かいまみ）見せるひと。

章加さんには、長年の夢があった。それは、南阿蘇村で宿をつくること。「わたしも浩二（夫）も、人を招いてご飯を囲むのが大好き。誰かを迎え入れる場所を、つくりたいなって」。移住から8年。とうとう完成に漕ぎつけたのが、「青い空と白い龍」だ。

たとえば家族で泊まって、言葉を交わし、手仕事をし、子どもたちを見守る。薪風呂を沸かしたり、畑仕事を体験したり。非日常の特別感を味わうというより、坂井家のふだんの暮らしの延長線上にあるものを、ゲストと分かち合うようなスタイル。

そうして、「大切なものを取り戻してもらえたら」と章加さんは言う。安らぎや、自然の営みへの感謝、誰かの温もりに気づくことのできる心。あるいは、自らの本音に耳を傾けること。それらは、「生きる力」とも言い換えることができるかもしれない。ギュッと凝り固まってしまった心身を解きほぐしてくれる優しい時間が、ここにはある。

青い空と白い龍を宿泊視点でのみ語るのは、少々もったいない。ここは多様な役割を担う。そのひとつが、「人が集う場」という役割だ。実際、訪ねるたびにビックリするような、心浮き立つ出会いがある。たとえば、さまざまな分野のアーティスト、薬草のスペシャリスト、自然農を実践する落語家など。もちろん、移住者や移住希望者に出会える確率も高い。実に多種多様な面々だが、あえて共通項を挙げるなら「自分の〝好き〟に素直な人」だろうか。

ある人が、こんなことを言っていた。「ここでは、誰も、誰かの夢を否定しない」。ああ、そうか。と腑に落ちる思いがした。世の中の「普通」という枷を嵌められて縮こまっていた夢の種が、ここに通ううち、いつの間にか芽吹く。それを「いいじゃん！」と、あっけらかんと受け入れてくれる人がいる。そんな「開かれた」場があることで、人々は生きる力を養い、いきいきと輝きを増していくのかもしれない。章加さんを筆頭に、時に迷いながらも軽やかに人生を歩むさまざまな人たちとの出会いが、誰かの背中をそっと支えてくれるのだ。

「ここが、誰かにとっての居場所になったらいいな」。章加さんの願いは、きっともう叶っている。

実は宿の施工の多くを、夫の浩二さんが担当。美しい手仕事ぶりがそこかしこに。DIY サポートも行っている。

思いやりを大切にできない日もあるけどね（笑）

Profile 03 ［第七駐在区］

吉永千尋さん

趣味のサーフィンを通じて夫・勝寿さんと知り合い、大阪から熊本へ。30歳を前に南阿蘇へ移住した。40歳でバイク免許を取得し、仲間と楽しんでいるそう。Instagram：@dari_a9180

あけっぴろげでカッコいいひと。それが、吉永千尋さんの第一印象。改めて千尋さんの話に耳を傾けるうちにその印象はもっと深まって、「なにがあっても生きていく、人間の力強さ」みたいなものに結びついていた。

そんな千尋さんも、20代前半で大阪から夫の地元である熊本へ住まいを移したときは「不安で仕方がなかった」という。なんとなく、うまくいかない。だからなおのこと、大阪での暮らしが恋しく思えてしまう。当時を振り返って、「自分、わりと長く大阪人だったなぁ」と千尋さん。流れが変わったのは、「ある考え」を変えたときだ。

「自分のアイデンティティは大阪にあると思ってたけど、べつに決めつけなくていいじゃん」。

うまくいかないときは、逆のことをしてみる。それは母の教え。自分のなかの固定観念をいったん取り払って、「熊本で生きるんだって腹を決めたら、なんだか受け入れてもらえる流れになったような」。もちろん、大阪が大切な場所であることは変わらない。でも、大事にしたい居場所がいくつあったって、「べつにいい」のだ。

家族で南阿蘇へ移り住んだのは2010年頃。実は千尋さん、初めて熊本を訪れた際に目にした南郷谷の風景にひと目惚れ。「いつか南阿蘇に住むって勝手に決めてた（笑）」。そしてここでも、千尋さん節が光る。「憧れの移住とかじゃない。美化された世界に来たつもりもない。だから、いわゆるギャップはない。何かをやってほしいとかもない。受け入れてもらえたら単純にうれしい。それだけ」。端的な言葉でハキハキ、にっこり。やはりカッコいい。

仕事はいくつか掛け持ちしている。主となるのは、地域食堂「よりどころ千」の営業と自動車整備工場の運営、子どもが気兼ねなくなんでも相談できる電話窓口「チャイルドライン」の運営だ。「よりどころっていう言葉が、なぜかずーっと気になってて、店の名前にしたんです」。チャイルドラインの活動にも通じるのは「たまたま」だというが、なんだかとっても千尋さんらしい言葉だと思う。

「誰もが、誰かのよりどころになれる」。たまたま、店で行き会った客どうしであっても。電話の相手の顔が見えなくても。互いの言葉や存在に救われる、そんな瞬間に幾度となく立ち会ってきただろう千尋さんの言葉は、とびきりカッコよく、どこまでも優しく響いた。

チャイルドラインとは、18歳までの子どもの電話相談窓口。千尋さんは2023年、仲間と一緒にチャイルドライン熊本を立ち上げた。

0120-997-777（子ども専用電話）
https://childline.or.jp

楽しくあたたかなコミュニケーションが飛び交う、よりどころ千。
おでんをメインに、定食スタイルで料理と酒を提供する。

未来のために、自分たちにできることをやろう！

Profile 04

［沢津野区］

野口輝也さん（右）
増田一期（かずき）さん（左）

沢津野生まれ沢津野育ちの２人。集落を盛り上げる活動をする早角会のメンバー。地域の風習に詳しい野口さんは庶務担当。ムードメーカーの増田さんが会を盛り上げる。Instagram：@sawa_to_haya

２０１６年に発生した熊本地震以降、さまざまな事情から「すっかり人がいなくなってしまった」という沢津野区。急速に過疎化が進むなか、できなくなってしまった地域行事もあるという。しかし、奪われるばかりではなかったのかもしれない。そんなふうに思えたのは、「早角会（はやつのかい）」の人たちの表情から感じ取れたのが、「沢津野が好き」というまっすぐなエネルギーだったから。

震災後、滞りがちになっていた地域情報の共有を、ＳＮＳアプリを使って有志で行うようになったのが、現在の早角会の始まり。「この集落を残したい。いま、自分たちにできることをやってみよう」。声をあげたひとりが、野口輝也さんだ。アメリカから帰国して実家の農業を継いだばかりだった増田一期さんも「子どもたちが大人になるころ、〝ここはもうダメだ〟ってなるのはイヤだから」と、メンバーに加わることに。

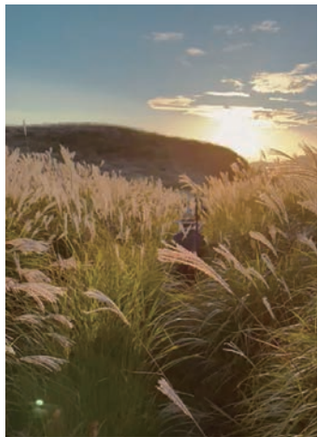
現在は20名前後が活動に携わっていて、しめ縄づくりなどの昔ながらの行事を復活させたり、新しいイベントを企画したりと、集落のにぎわいづくりに貢献している。義務感や危機感、使命感にかられて…というよりも、「面白そうだから、とりあえずやってみるか！」という軽やかさが、気持ちいい。

「沢津野の魅力を、たくさんの人に知ってほしいなと思います。ここは山がちな地形で、そりゃ不便なこともいろいろあるけれど、ここを好きになってくれて、関わりたいと思ってくれる人や移住する人が増えたら、うれしいですね」。野口さんの言葉に、増田さんがうなずく。

関係人口や移住者の受け入れ側として、早角会が担う役割はとても大きなものになりそうだ。どの集落でも、「どうやったら地域の人と交流できるかな」と悩む移住者や、反対に「行事に誘ったら迷惑だろうか…」と迷う地域の人の声を聞く。早角会は、その間をバランスよく取り持つことができると思うのだ。会が携わる行事に遊びに来て楽しんでもらえれば、「地域に馴染むステップ」を踏むきっかけになるに違いない。農家の増田さんは、「新規就農希望の人にはうちの研修生になってもらって、みんなに顔つなぎする。自分が軽トラを運転してると近所の人が集まってくるんで（笑）」と、実に頼もしい。

さまざまな情報があふれかえり、あらゆるものが変化し続ける時代。思考を止めず、活動を続ける早角会の勇気を、ひとりのファンとして応援したい。

上／集落の公園で開催した夏祭り。「子どもがいっぱい遊びに来てくれて、すごくうれしかった」と増田さん。
下・左／11月初旬、敬老会のメンバーと一緒にしめ縄づくり。2021年から再開させた地域行事のひとつ。しめ縄は、早角神社と天満宮に奉納。



増田さんが「めちゃくちゃキレイでしょ」と話してくれた、集落の山から望む夕焼け。

右／わらべびではオリジナルのわらべ歌を歌う。美奈さんの末っ子の蒼人（あおと）くんは、いまでもこの歌が大好き。左／こちらも美奈さんが代表を務める子育てサークル「あそかっぱ会」の活動にて、紙芝居イベントを企画したときの様子。

楽しいのが一番！
ワクワクつながる
出会いを。

Profile 05 ［黒川区］

佐藤美奈さん

福岡県出身。2015年に南阿蘇村へ。子育て中の「ひとりぼっち感」をやわらげる活動を展開。「子どもの遊べる場が意外と少ないので、イベントなどで気軽に交流してもらえたら」。
Instagram：@minawarawa

人は誰かとつながることで生きている。子育てもそう。親と子の関係をとりまく、たくさんの温かな手や眼差しがあって、思うようにならないときも「そんなこともあるよ」と肩をたたいてくれる誰かがいれば、ホッとできると思う。「人生も子育ても、大切なことは誰と出会えるか。いい出会いの場をつくりたいなと思っています」と、はにかみながら話してくれたのは、佐藤美奈さん。家族の絆をテーマに掲げる「わらべびのわ」をはじめ、幅広い年齢の子を持つ親が集える場づくりを行っている。

美奈さん自身、3人の子を育てるお母さん。初めての出産は、誰一人知り合いのいない大分県で。心細さを癒やしてくれたのは、産院で出会ったとあるお母さんだった。「本当によくしてもらいました。友人にもらった分、いつか私が、誰かに幸せを贈れたらなと思うようになったんです」。それが、美奈さんの活動の原点。

わらべびとは、わらべうたベビーマッサージの略。歌を歌いながら子どもをマッサージすることで、親子のふれあいが深まるというもの。「マッサージ中の親子を見ているだけで、キュンとしちゃう（笑）。お母さんたちが、すっごくいい表情をしているんです。少しずつ緊張がほぐれていく過程もまたよくて。赤ちゃんどうしの『はじめまして』の交流を、ドキドキしながら見守ったり」。兄弟間のコミュニケーションにも、うってつけだという。美奈さんはインストラクターとしてイベントなどを企画し、身近な人たちにわらべびを伝えてきた。参加者どうしの交流が深まり、「お母さんの知恵袋」が豊かになっていく。楽しい気持ちが広がればアイデアも湧いて、もっともっと楽しくなる。「できる人が、できるときに、できることを」という緩やかさも継続の秘訣。

まずは楽しんでみる、というスタンスは、地域との関わりにおいてもとても大切だ。家族5人、黒川区で暮らす美奈さん。義母が黒川区で下宿を経営していた縁で、移住当初から「あの宿のご家族ね」と親しみを持ってもらえた。「地域の人に子どもたちのことを認識してもらえていることは、防災面でも安心」と話す。一方で、古くからの地域行事については、いまいちよくわからない。「でも大事にしたいから、『わからんので教えてくださーい』って、近所の人にお願いします」。

ごくごくシンプルに、気負いなく。美奈さん流の、仕事や暮らしを楽しむコツを垣間見れた気がした。

上／「黒川区のお母さんたちが作るのっぺ汁が、めっちゃうまい！」と美奈さん。
下／黒川神社の子ども相撲に参加。

できる縁があり、
求められている。…のかも？

Profile 06 ［第三駐在区］

赤星信比古（のぶひこ）さん

熊本県出身。兵庫県暮らしを経て 2022 年 11 月に南阿蘇村へ。「ネットでの情報収集もしたけれど、“実際のところ”をすり合わせておくのが大切」と自らの経験を踏まえて話す。大阪の、熊本県への移住相談窓口を通して準備を進めた。

「やりたい、だけじゃきっと移住できなかった。できる環境が整ったということはつまり、ご縁があったということなのかなと」。赤星信比古さんはそう言って、妻の静香さんと笑い合う。持ち家の売却、新居の確保、新しい仕事先決めととんとん拍子に進み、本格的に動き出してから実質5ヵ月ほどで移住を実現。南阿蘇に「呼ばれた」のではないかとさえ思えるスピード感だ。

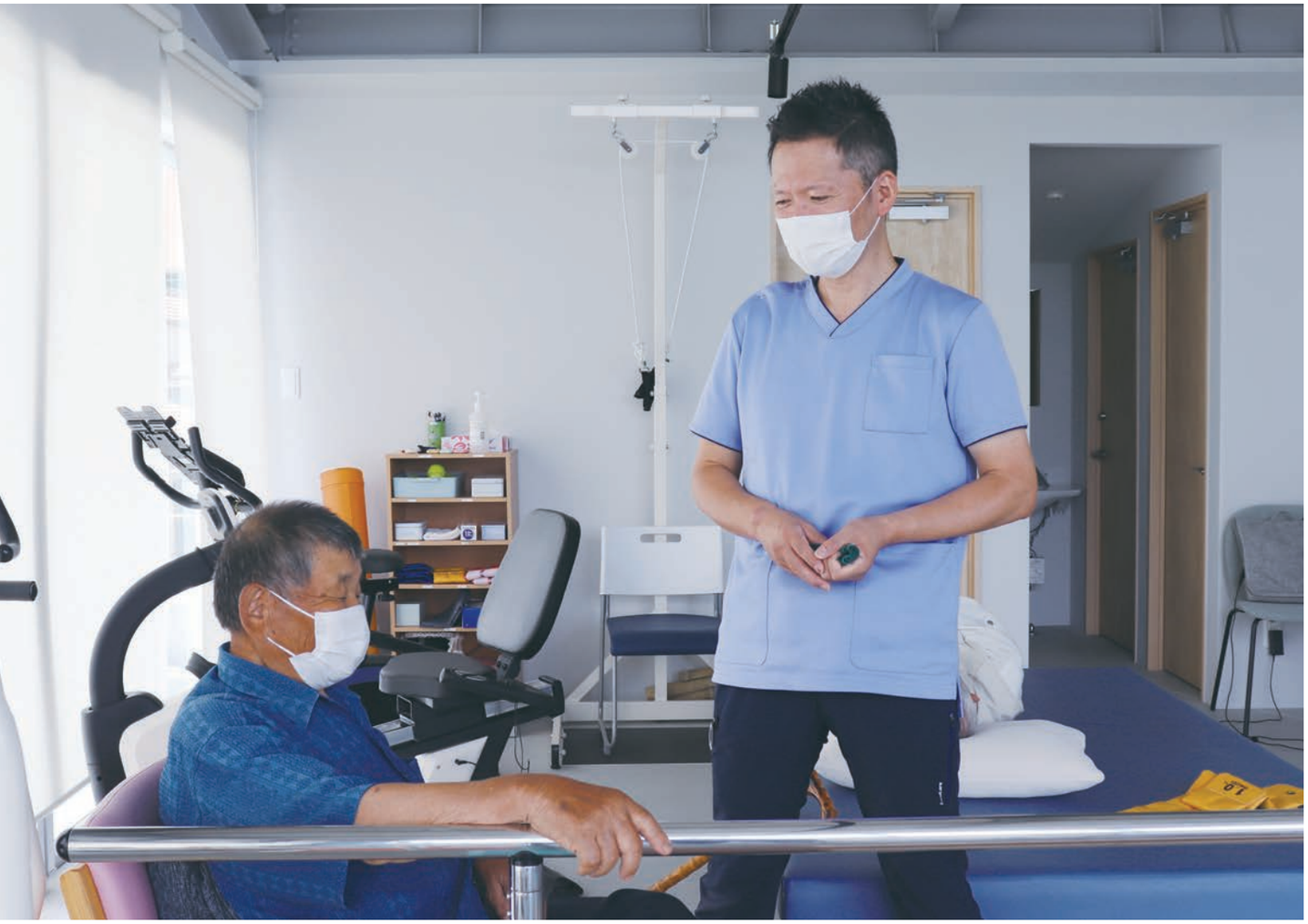
信比古さんは兵庫県で静香さんと出会い、結婚。家を建て、熊本から呼び寄せた両親も一緒に暮らしていた。夫婦共に介護医療の現場で働きながら、たまの休日にはキャンプを楽しむのが定番。ただ、そこに違和感を覚えてもいたという。「稼いだお金をキャンプにつぎ込んでストレス発散する」生活は、いつしか限界に。両親が熊本に所有する土地や墓の管理の必要もあり、家族の話題に移住というワードがのぼるようになっていった。

大好きな自然の近くで、暮らしを設計し直そう。その場所として選んだのが南阿蘇村。移住の下見を兼ねて夫婦で阿蘇地域を巡った際、「自分はこの風景を失ってしまっていたんだなって気づいた」と、信比古さん。そびえ立つ山と、その裾に広がる家や田畑。のびやかな草木を揺らす風のにおい。美しい水とおいしい食べ物。空を埋め尽くす星の明かり。あたりまえにあるそれらが、ささくれだった心にそっと染み入ってきたという。

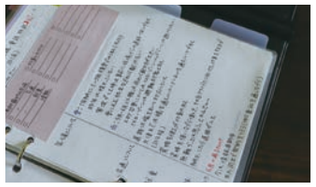
移住後に選んだのは、やはり介護医療の仕事。そこから離れるという選択肢もあったけれど、「やりたい」だけを押し通したところで、ひずみが生じてしまう。地域に求められていて、それを提供できるのなら、「無理がない」と考えての選択だ。

なにより「人と接することが好き」な信比古さんだから、職場にも早々に馴染んだ様子。「びっくりしたのが、お年寄りがみんな元気なこと。利用者さんと話していると、人生の勉強になります」。その人の生きてきた背景、つまり地域の人たちが暮らす環境を知りたいという気持ちは自然と高まる。おすすめの飲食店やホタルが見られる穴場などを教えてもらうのも、とっておきの楽しみになった。

ちなみに、キャンプに出かける頻度は減ったらしい。「暮らしているだけで満たされるからかも。実は移住前よりいそがしいってのもあるんですけど（笑）」。あはは、と声をあげて、信比古さんと静香さんは笑っていた。



信比古さんは、グループホームやデイサービス事業を展開する、南阿蘇ケアサービスに勤務している。　上／2023年に新設されたリハビリテーション施設。　下・左／利用者の運動をサポートする信比古さん。
Instagram：@minamiasocare



上／妻の静香さんは京都府出身。2人の軽妙なやり取りが面白い。下／移住にまつわる情報をまとめた「ブラックノート」。大変なこともあったが、いまでは「いい思い出」。

やさしい気持ちに
なれるおやつ

01 焼き菓子

物語の始まりを予感させる店構え、店主の朗らかな笑顔、愛情たっぷりのおやつたち。幸せのエネルギーに満たされて。
※ネコのイラストはクッキーです。

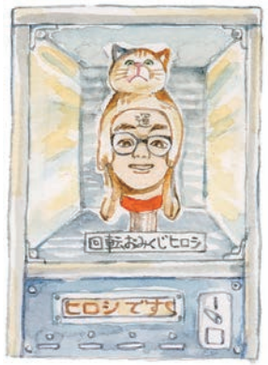
トコトコ…

＼ 教えて！ ／

みんなのお気に入り

好きな食べ物、安らげる場所。
地域の皆さんに、「お気に入り」を教えてもらいました。
ほんの一部ですが、トクベツにご紹介します。

思わず二度見！？
怪しさに誘われて…



謎のキーホルダー

03 回転おみくじヒロシ

遊び心が爆発する村一番の（？）謎スポット。おみくじマシンや列車の運行に合わせて動く自動歓迎人形など、マニア垂涎もの。

時間を忘れて、
うっとり見とれちゃう

02 ヨ・ミュールの夕日

新阿蘇大橋のたもとの展望スポット。外輪山の輪郭を金色に染める夕日が見事で、阿蘇のダイナミックさが迫ってくる。赤い第一白川橋梁がアクセント。

04 古い本

駅舎のなかに古書店。「本は友だちみたいな存在」とはにかむ、店主のセンスがきらり。特別な1冊との、素敵な出会いがありそうな予感。

たくさんの
“友だち”との出会い

ワクワクが詰まった
魅惑のたこ焼き

05 たこ焼き

とろりとしたアツアツ生地の中から大きなタコがひょっこり。ひとつ、もうひとつと手がのびてしまう。愛されキャラの店主夫妻とのやり取りも楽しい。

人と人を結ぶ、
いつもの素朴な味

06 資本ケーキ

昭和２年築の長陽駅の駅長が焼くのは、季節ごとの地元素材をたっぷり使ったシフォンケーキ。地域の輪に、ほんのり甘い香りを添えて。

＼ 私も好きな場所
ばっかりです！ ／

イラスト：SAKIE
南阿蘇村出身・在住、2児の母。隙間時間にイラストレーターとして活動中。
Instagram：@sak_sak_sak2

01 手作りおやつの店 aiju（あいじゅ）
南阿蘇村久石2839-5
11:00〜17:00
土・日曜、祝日のみ営業
Instagram:@aijucafe0526
※おやつの素材は、季節によって異なります。

02 新阿蘇大橋展望所「ヨ・ミュール」
南阿蘇村河陽4368-1
展望所 常時開放
トイレ・休憩室 9:00〜17:00

03 阿蘇カラクリ研究所
南阿蘇村河陽392-7
（阿蘇下田城駅内と駐車場）
オープン状況はSNSでチェック
Facebook:
@asokarakuri　@asokarakuri2

04 ひなた文庫
南阿蘇村中松1220-1（南阿蘇水の生まれる里白水高原駅内）
11:00〜15:30 金・土曜のみ営業
Instagram:@ hinatabunko

05 万福小屋 どんぶらこ
南阿蘇村河陰4510-4
10:00〜19:00 月・火曜休み
Instagram:
@manpukugoya_donburako

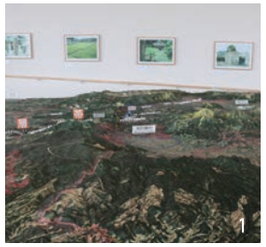
06 久永屋
南阿蘇村河陽3440-4（長陽駅内）
11:00〜18:00
土・日曜、祝日のみ営業
https://www.hisanagaya.com

熊本地震震災ミュージアム

KIOKUで辿る あの日の記憶

いつかくる〝その日〟のために。大切なものを、守れる自分でいる。

KIOKUの運営に携わる久保さん（左）とスタッフ。スタッフには地震経験者も多く、その経験談を聞けることも。「つらい記憶ですが、それが誰かを助ける糧になることで、報われる部分もあるのかも」と久保さん。



1・2　KIOKUの展示コーナー。映像やジオラマなどで、阿蘇の地形と重ね合わせながら、当時のことを学べる。3・4　敷地内の震災遺構も見学できる。地震後に閉校となった、旧東海大学阿蘇キャンパスと、キャンパスを貫いた断層の一部。

南阿蘇村河陽5343-1　開館時間／9:00〜17:00
休館日／月曜（祝日の場合翌平日）、年末年始
入館料／大人500円、中高生400円、小学生300円※県内小中高生無料
https://kumamotojishin-museum.com

自然と共に生きていくために

南阿蘇への移住を考えている人は口々に語る。「環境がいい。自然が豊か」と。自然が身近であるからこそ、心構えも必要だ。

「地震は、防ぎようのない自然現象。どう備え、どうつき合っていくかが大切です。この場所が、防災について考えるきっかけになれば」。そう話すのは、震災ミュージアムKIOKUの統括ディレクター久保尭之（たかゆき）さん。KIOKUは、2016年に発生した熊本地震での経験や教訓を伝える拠点施設。震災関連の展示はもちろん、防災講座の開催など、さまざまな切り口から地震・防災について学ぶことができる。

わたしたちが暮らすのは、阿蘇カルデラの内部。もとは湖だったところの水が抜けたことで、人が生活できるようになった。その経緯は神話にも語られるところだが（本誌16ページ）、実はそこには、巨大地震が関係していたのではないかと言われている。「当時の人たちは、人智の及ばない出来事を神話として語り継ごうとしたのかもしれません。そのくらい、ずっと昔から地震と深い関わりのある場所で、僕たちはいま暮らしているということです」。

移住者でもある久保さん。備えあってこその暮らし、という感覚は、地域の人たちの姿に学んだところも大きいようだ。「震災を経てなお、この場所が好きだからと住み続けている方や、心を寄せてくれる方がたくさんいる。すごく逞しいなって思います」と、笑顔を見せる。

〝その日〟は、100年後かもしれないし、今日かもしれない。それは誰にもわからない。ただ、日常の延長で少しだけ心構えをしておくことで、結果はきっと変わる。自分を守るだけでなく、誰かを助けることだってできるかもしれない。

ここKIOKUで、誰かの、モノの、土地の記憶に触れることが、いつか誰かの助けとなりますよう。

移住は、防災を見つめ直すいい機会。
一度考えてみよう。

移住×防災チェック

□ 潜在的な危険性を確認

防災情報くまもと https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp
熊本県土砂災害情報マップ http://sabo.kiken.pref.kumamoto.jp

□ 引っ越したら近所にあいさつ

自分が「ここに住んでいる」ということを、周囲に認識してもらおう。

□ 地域のコミュニケーションが大切

あいさつや世間話を交わす関係を築いておきたい。公民館や学校など、近くの指定避難場所の確認も忘れずに。気軽に参加できる防災イベントもあるので、参加してみよう。

□ 日頃の備え

非常食や救急道具、ペットの道具をまとめておく。履き古した運動靴は捨てずに、枕元に置いておく。震災を経験した人に話を聞いてみる。などなど。

地域といっしょに防災を考える！

黒川ウォーク

熊本地震の被害が大きかった地域のひとつ、黒川地区。当時、東海大学阿蘇キャンパスに通う学生も近隣住人の救助に尽力し、学生と地域のあたたかなつながりは、いまなお続いている。そのひとつが、学生と村とが共同で企画する防災イベント「黒川ウォーク」だ。

住人と学生による、黒川地区のガイド。実際に地域を歩き、復興の様子を巡る。

ペットの防災も大事なテーマ。避難所ではキャリーケースに「犬がいます」などの表示をしておくのがマナー。
認定NPO法人 日本レスキュー協会
https://www.japan-rescue.com

黒川地区を元気づけようと発足された住人有志団体、「黒川やまめの会」「すがるの里」も全面協力。ヤマメの塩焼きや豚汁の出店に、参加者もホッと和む。

※今後の開催については、政策企画課へお問い合わせください。

学生有志グループ

阿蘇の灯

Instagram：@asonoakari

阿蘇MIRAI広場

Instagram：@ aso_mirai_hiroba

知ってほしい

ごみのはなし

きれいな地域で
気持ちよく暮らしたいから。
私たちにできること。

南部中継基地
高森町大字色見1997-5
0967-62-0719

大阿蘇環境センター未来館
阿蘇市跡ケ瀬177 0967-24-5353
※施設見学については事前にお問合せください。

ごみの出しかた

- **ゴミステーションに出す** ※ごみ出しカレンダーを参照。
- **南部中継基地に直接持ち込む**
  ［受付時間］平日 8:30〜16:30、第4土曜、祝日 8:30〜11:30

私たちが生きていくうえで、必ず関わる「ごみ」のこと。自らのごみ事情を省みれば、ゴミ袋に入れてごみステーションに出した後は、業者にお任せコース。目の前からなくなれば、スッキリしておしまい、というのが正直なところ。

でもそこで「終わり」ではない。回収されたごみはその後、どこでどんなふうに処理されるのだろうか？　向き合う一歩は、現状を知ることから。訪ねたのは、南阿蘇村を含む2町村のごみを集積する、南部中継基地。そして、阿蘇管内のうち6市町村のごみを処理する施設、大阿蘇環境センター未来館だ。

収集車で南部中継基地に集められたごみは、大型クレーンで大まかに攪拌（かくはん）。小型家電などは手作業で細かく分解し、プラスチック部分と金属部分に分ける。その後、未来館へ運ばれる。

未来館には、可燃性ごみを固形燃料（RDF）に変換する工場と、資源を選別・破砕する工場がある。処理量は1日約62トンで、リサイクル率約6割（全国平均約2割）。RDF化がリサイクル率の向上（埋め立て処理量の減少）に貢献しているという。ちなみに、可燃性ごみの約半分は水分。残飯の水切りをしっかりするだけでも、工場処理に要するエネルギーをかなり節約できるそうだ。

阿蘇管内の埋め立て地は1ヵ所のみ。埋め立て量は年々増加傾向にある。ごみを減らす、ものを大切に使う、リサイクルする。その基本に立ち返ることが、私たちが果たすべき、せめてもの責任だ。

ごみ出しマナー

● 日時と分別を守る

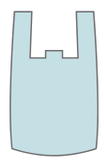
分別の不十分が原因でせっかくの資源をリサイクルできなくなったり、火災や設備故障が発生したりすることも！　分別の詳細は、「ごみ分別早見用」をチェック。

〔参考〕https://www.vill.minamiaso.lg.jp/list00166.html

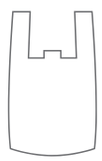
● 指定のごみステーションへ

ごみステーションは設置地域で管理され、利用には管理者の許可が必要。ごみステーションへ出せない粗大ごみ等は、南部中継基地へ直接持ち込む。

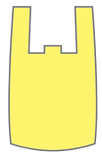
● 指定ごみ袋を使う ※南阿蘇村の店舗等で購入できる。



〔青色〕不燃ごみ
金属類、小型家電製品、ガラス、陶磁器など。



〔透明〕資源ごみ
食品容器として使われた、ビン、カン、ペットボトル。清潔な衣類など。



〔黄色〕固形燃料ごみ
生ごみ、紙くず、プラスチックなど。

南阿蘇村ではどれくらいのごみが出る？

※2022年度のデータ

ひとり1日 **799**グラム　1年で **2,968**トン

上／未来館にて。不燃ごみの手選別作業。鉄類はリサイクルされ、残りは埋め立てる。
右下／南部中継基地にて。手作業で小型家電を分解しているところ。
左下／未来館にて。固形燃料ごみが貯留されるピット。

施設から、においや汚水は出ないの？

ピットの臭気は活性炭で除去。乾燥時に発生する臭気は熱分解する。ごみを受け入れるプラットホームにはエアーカーテンが設置され、外部ににおいが漏れない仕組みになっている。ピットに溜まった水や工場内で使用した水は乾燥機で蒸発。施設外に流出することはない。

プラットホームの入り口

RDF（Refuse Derived Fuel）ってなに？

黄色いごみ袋には、「燃やすごみ」ではなく「固形燃料ごみ」と書かれている。固形燃料（RDF）とは、可燃性ごみを細かく砕き、乾燥させて固めたもの。工業施設などの燃料として再利用される。ごみを直接燃やす手法に比べて、ダイオキシンなどの発生リスクを抑え、最終残渣（埋め立てる）が少なく済むのが特徴。

ペレット状に成形された RDF。原料となったごみと比較すると、大きさ 1/4、重さ 1/2 ほど。

移住支援

移住（空き家・空き地バンク）パンフレットはこちら。

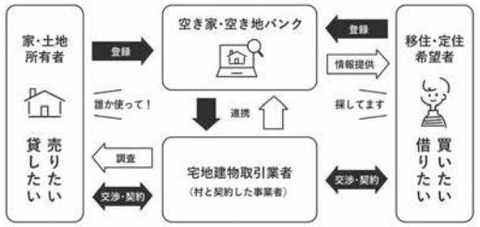
地域と交わるには、地域を知ることが大切。移住を検討される際は、お気軽に窓口までご相談ください。

移住（空き家・空き地バンク）パンフレットもチェック！

村の空き家・空き地活用を応援する公式キャラクター あきやん

空き家・空き地バンク

家や土地の所有者と、利用希望者をつなぐ仕組みです。制度の利用には、利用登録が必要です。
※村は交渉・契約に関与しません。



おためし移住住宅

道の狭さ、スーパーまでの移動、冬の寒さなどなど、村暮らしの実際を体感いただける、お試し移住住宅を整備。移住の準備に活用ください。

田舎ともだち相談員

移住希望者、移住したての方の相談・交流相手として村が選任。「区役はどんなことをする？」「起業した人の話を聞きたい」「子育てのリアルは？」など、相談員に話を聞いてみたい！ という方は、定住促進課までお問合せください。

＼ ここもチェック！ ／

熊本県 移住定住ポータルサイト

熊本県への移住にまつわる情報を発信。移住相談会の開催、地域おこし協力隊の募集など、耳よりコンテンツがたくさん。

くまもと　移住

https://www.kumamoto-life.jp

＼ ご相談はお気軽に♪ ／

熊本県への移住相談窓口

- 東京窓口　080-2125-1656　kumamoto@furusatokaiki.net
- 大阪窓口　080-1577-4927　kumamoto-iju@ahc-net.jp
- 福岡窓口　090-8730-6913　kumamoto-f-iju@ahc-net.co.jp
- 熊本窓口　096-333-2181　kumamoto-kurashi@pref.kumamoto.lg.jp

定住促進課　|　0967-67-2705　https://minamiasoijyuu.jp

就農支援

研修中の若者と受入農家

南阿蘇村では、豊富な水資源の恩恵と冷涼な気候を、農業に活かすことができます。なかでもトマト、アスパラ、トルコギキョウの栽培が盛んです。ベテラン農家から技術や経営ノウハウを学ぶ研修制度や補助金制度も充実しています。

新規就農のサポート制度については、パンフレットを参照ください。

南阿蘇村農業みらい公社

露地栽培に興味がある方は、南阿蘇村農業みらい公社にご相談を。新規就農希望者を「地域おこし協力隊」として迎える仕組みもあります。

https://www.minamiasomiraikousha.com

南阿蘇村農業研修生受入協議会

村で「農業を始めたい」という強い希望と夢を抱く就農希望者を支援する、農業研修機関です。知識・技術・経験がなくても大丈夫。「師匠」となる受入農家のもとで、２年間農業を学ぶことができます。

さまざまな補助金があります

- 研修中の生活安定支援…**上限150万円／年**
- 農業資材等購入補助…**上限20万円**
- 青年等就農資金…**融資限度3700万円** など

＼ ここもチェック！ ／

熊本で農業をはじめよう！
熊本県新規就農支援センター

熊本県 新規就農ポータルサイト

https://www.kuma-farm.jp

熊本県は、農業がとても盛んな地域です。いきいきと活躍している先輩就農者もたくさんいます。農業に興味があるけれど、何から考えればいいかわからない！　という方は、県の相談窓口を活用ください。

農政課　|　0967-67-2706

Village information

結婚支援

\ 婚活サポーター活躍中！ /

結婚を希望する未婚の男女に新たな出会いの機会や結婚に関する情報を提供したりアドバイスをしたりする、「婚活サポーター」がいます。相談はお気軽に。※サポーター登録も受付中。

\ 新婚生活サポート /

補助額 最大60万円

対象経費
- 住宅取得費用
- 住宅賃借費用
- 引っ越し費用

対象者
- 婚姻届けを受理された夫婦
- 夫婦共に39歳以下 など

総務課 ｜ 0967-67-1111

Village information

社会福祉活動

左／60歳以上の村民などがスポーツを通して交流する、福祉運動会。
右／やまびこネットワークのイメージキャラクター、やまびこくん。

やまびこネットワーク

やまびこネットワークとは、南阿蘇に暮らすすべての人の心温まるコミュニケーションの輪。地域住民（行政区単位）を基盤に、行政、医療機関などと連携し、支援を必要としている方をサポートしています。

シルバー人材センター

シルバー人材センターでは、会員それぞれの特技を活かした就労の場を提供することで、福祉の増進をはかり、活力ある地域社会づくりに貢献します。「草刈りをしてほしい」「花壇の水やりをしてほしい」など、暮らしのちょっとした困りごとはご相談ください。

0967-67-3607

新規会員随時募集

あなたの豊かな経験を、誰かのために活かす仕事です。※会員登録できるのは、60歳以上の村内在住者。

お仕事依頼お気軽に

仕事内容
- 農業サポート
- 草刈り
- 清掃
- 大工仕事 など

社会福祉協議会 ｜ 0967-67-0294 https://www.asoyamabiko.jp/minamiaso

Village information

子育て支援

地域全体で関わる、子育て。豊かな自然のなかで、
健康に逞しく育つよう、さまざまな支援があります。

保育園＆学校情報

※保育園から中学校まで、通園・通学バスあり

保育園	小学校	中学校	高校以上
・はくすい保育園 ・くぎの保育園 ・ちょうよう保育園	・白水小学校 ・久木野小学校 ・南阿蘇西小学校	・南阿蘇中学校	村外の高校へ進学し、鉄道等を利用して通学したり、学校の寮に入ったりする人が多いです。村内には通信制高校と IT 専門学校があります。

支援内容一例

●出産お祝い金　●出産・子育て応援給付金
●すこやか成長祝い金　●産後ケア事業
●ランドセルプレゼント　●中学校かばんプレゼント
●給食費補助　● 18 歳まで医療費無料　●学童保育　など

\ 子育て関連情報をチェック！ /

上／予約不要で利用できる、わくわく広場。
下／やわらかな雰囲気の図書室。
（9時～17時半開館。月曜休館）

LOOP みなみあそを活用しよう！

１階は図書室、２階は子育て支援センターわくわく広場とフリールームを備えた複合施設。わくわく広場では、就学前のお子さんと保護者が、いつでも気軽に遊べます。季節ごとの行事も企画しています（一部有料）。

LOOP みなみあそ
阿蘇村河陰145-3
子育て支援センターわくわく広場
0967-65-8580
開所時間／10:00～15:00
休所日／日・月曜、祝日、年末年始

子育て支援課 ｜ 0967-67-2715

バスケットボール

バレーボール

剣道

体操、新体操

野球

卓球

バドミントン

陸上競技

スポーツを楽しむ

小さな村でもスポーツは盛ん！
気になったら、まずは見学から。
文科系活動や、大人OKの活動もあります。　イラスト／チチリ企画

—— お問合せ
南阿蘇村教育委員会 0967-67-1602

キックボクササイズ

和太鼓

サッカー

交通アクセス

飛行機で

羽田空港から阿蘇くまもと空港	約110分
大阪伊丹空港から阿蘇くまもと空港	約80分

車で

阿蘇くまもと空港から南阿蘇村役場	約30分
熊本県庁から南阿蘇村役場	約60分

バスで

阿蘇くまもと空港から南阿蘇村	約30分～
熊本市街地から南阿蘇村	約90分～

JR・鉄道で

熊本駅から南阿蘇村	約50分～

車での移動がおすすめ！

交通手段は車がおすすめです。公共交通機関もありますが、運行本数やルートが限られています。

ご注意！

- 村内にはレンタカーの事業所がありません。ご利用の際は、熊本市街地や空港などで手配してください。
- タクシーは隣町から呼ぶ必要があります。場合によっては1時間以上待つことがあります。

公共交通機関

熊本市街地 ― JR ― 肥後大津駅 ― JR ― 立野駅 ― 南阿蘇鉄道 ― 村内各駅各停留所

熊本市街地 ― バス ― 阿蘇くまもと空港 ― バス ― 村内各駅各停留所

肥後大津駅 ― 空港ライナー ― 阿蘇くまもと空港

運行状況は公式サイトでチェック

- 産交バス　https://www.sankobus.jp
  ※快速たかもり号、特急たかちほ号、ゆるっとバス（村内）
- ＪＲ九州　https://www.jrkyushu.co.jp ※豊肥本線
- 南阿蘇鉄道　https://www.mt-torokko.com

※村内乗合タクシーあります（村内在住者限定）

［参考］https://www.vill.minamiaso.lg.jp/list00216.html
（産業観光課）

おかえり！

南阿蘇鉄道

「南鉄」の愛称で親しまれるローカル鉄道。熊本地震の影響により一部運休していましたが、2023年7月15日に全線運転再開。トロッコ列車も運行中（冬期運休）。

ローカル情報はココでチェック！

公式WEB

南阿蘇村ホームページ
https://www.vill.minamiaso.lg.jp
主に行政情報や緊急情報を発信します。

南阿蘇村移住ポータル
https://minamiasoijyuu.jp
移住に関する情報を発信します。

みなみあそ観光局
https://minamiaso.info
観光情報を発信します。

公式SNS

LINE：@minamiaso
主に行政情報や緊急情報を発信します。

Facebook：@minamiasovillage
主に行政情報や緊急情報を発信します。

Instagram：@minamiaso_life
主に村内の風景や観光情報を発信します。

Instagram：@minamiaso.info
みなみあそ観光局による、観光情報発信。

話してみよう！

熊本弁

「だごんごつ／たいぎゃ」
ハンパではない。量（程度）がとても多い。

「ぎゃん行ってぎゃんたい」
こう行って、こうだよ。
※地図や辺りを指さしながら

「よかよか！」
大丈夫だよ～。気にしないでいいよ。

「あとぜき」
開けたドアはきちんと閉めてね。

「びゃんびゃん」
どんどん。じゃんじゃん。

「かてて～」
仲間に入れてちょうだい。

「むしゃんよかね」
カッコいいじゃん！

「せからしか」
うるさいなぁ。

「ピシャリしとる」
きちんとしている。

「さしより」
とりあえず。まずは。

- MEMO -

わたしの宝物ノート

あなたが見つけた南阿蘇村のことを、自由に書いてみよう。

熊本県南阿蘇村 移住のはなし

みなみあそ くらしノート

2024 年 3 月発行

取材・編集	家入明日美（南阿蘇村地域おこし協力隊）
表紙撮影	五十嵐恵美
写真提供・協力	南阿蘇村行政区長の皆さん、藤崎英広さん、地域の皆さん、阿蘇火山博物館、阿蘇広域行政事務組合、公益財団法人阿蘇グリーンストック、九州大学
制作	中川優美子
イラスト	チチリ企画、SAKIE
印刷	株式会社 城野印刷所
発行	南阿蘇村定住促進課 〒 869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 1705 番地 1 電話　0967-67-2705 https://minamiasoijyuu.jp

参考文献
・久木野村史 第2・4・5巻（1990～1996）
・長陽村史（2004）・白水村史（2007）・ASOいざ草原へ（環境省）
・阿蘇と熊本地域の地下水を中心とした水循環システムと熊本地震（森林環境2023）など

※記載の内容は取材時のものです。また、地域によって風習が異なるため、
　必ずしも正確な情報ではない場合があります。
※行政の制度については、担当課に最新の情報をお問合せください。
※本誌掲載の記事、写真等の無断転載はしないでください。

南阿蘇村

地域おこし協力隊